

消費者

記号をよく見て洗濯上手

洗濯表示が変わりました

今月から、洗濯表示が50年ぶりに新しくなりました。今回から、表示が海外と同じになり、以前の22種類から国際規格の41種類に変わりました。

洗濯表示は、【5つの基本記号】と【数字】【温度や強さなどを表す記号】の付加記号で表されます。

これらは洗濯や乾燥の仕方などを示していて、表示より強い作用や高い温度での洗濯やアイロン掛けは、衣類にダメージを与える可能性があるの
で注意が必要です。

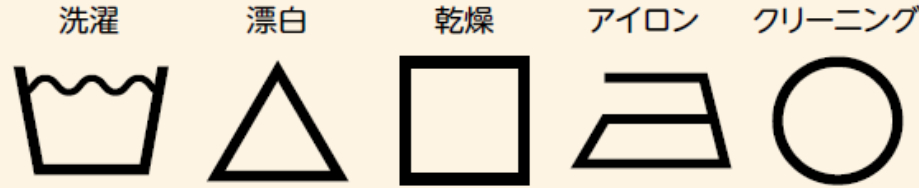
難しく思えますが、法則性があります。記号の下の横線(一)は強さ、点(・)は温度の扱い方を表します。線はマイナスと覚え、多いほど「弱い」、点
は多いほど「高い」と覚えましょう。

下の「新しい表示例」をご覧ください。たらい桶は洗濯の仕方を表します。40と線が1本の場合、液温は40℃
を限度とし、洗濯機で弱い洗濯ができます。

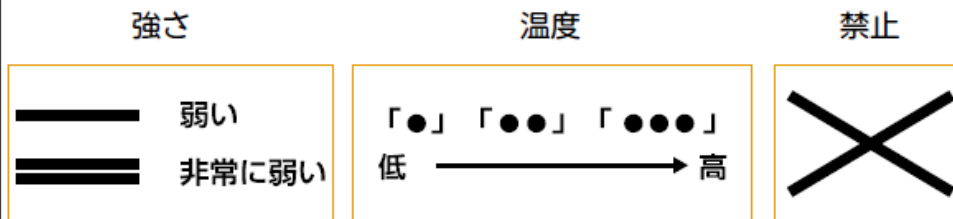
表示が変わり、慣れるまでは大変ですが、衣類をダメにしないためにも、記号をよく見て、洗濯上手を目指
しましょう。

詳しくは消費者庁ホームページを
ご覧ください。

5つの基本記号



温度や強さなどを表す記号



新しい表示例

40℃で弱く洗濯
できる図



■ご相談は消費者センター(メルカつかまち4階、相談専用☎829・1234)へお気軽にどうぞ。受け付けは午前10時〜午後5時です。12月29日(木)〜1月3日(火)、月曜日は休業(祝日の場合、直後の平日)。